

書評

フィールドの生物学⑩ 凹凸型の殻に隠された謎： 腕足動物の化石探訪

椎野勇太（著）

東海大学出版会，
2013年7月20日発行，268pp.
ISBN 978-4-486-01849-0，2,000円（税別）

凹凸型という風変わりな語句をタイトルに用いた本書は、著者が学部3年次にスタートさせた進化古生物学者への歩みが綴られた研究体験記である。著者は、学部時代から精力的に気仙沼地域の古生界の地質調査を行い、そこから産するさまざまな腕足動物化石についての理解を深めた。修士課程では、凹凸型の殻形態をもつ古生代腕足動物を研究対象として、機能形態学を駆使して古生態復元に挑んだ。さらに博士課程では新たに流体シミュレーションを導入し、殻内の循環水流の機能について定量的な議論展開を図った。学位取得後はこれまでに培った視点と手法を自在に組み合わせ、生物の進化・適応にさらに迫ってゆく。このように研究能力を着実にステップアップさせながら、成果も着実に積み上げてゆく様子が第1章から第6章中盤にかけて生き生きと描写されている。研究体験記と聞くと堅苦しいイメージを抱いてしまうが、本書は例外で、軽妙さや爽快感を感じさせながら最後まで一気に読ませてしまう。これは、難解になりがちな研究成果を努めて平易な文体で解説している著者の工夫に負うところが大きい。また、本文の随所に適切な例を用いて原理や数式の意味を直感的に伝えることによって、読者が読解に費やすエネルギーを大分抑えた点は特筆される。さらに、研究遂行にまつわる模索、失敗を笑いに代えて文中に組み込むことで、読み手が無意識に一息入れながら読み進めることが出来る。

第6章終盤のエピローグは、表現自体は若干抑えぎみだが、著者自らの信条が色濃く反映されている重要な部分である。地球科学や古生物に関心の深い読者は、著者の信条に対してさまざまな感想を抱くであろう。一方で、専門外の方は、「古生物学ってこんな点に眼をつけて研究しているのか!」という新鮮な驚きを感じるのではなかろうか。本書は、これまでの古生物学に対する一般的なイメージとその実態とのギャップを埋めることに大いに寄与するだろう。

最後に、著者の元指導教員としての立場から個人的な感想を述べることをお許しいただきたい。評者が最も印象深かった点は、学部・修士課程のくだり度々仄めかしている著者の化石に対する渴望の思いである（例えば第1章，p.7など）。評者が知る限り、研究を始めた当初は、著者はお世辞にもフィールドで化石を見つけるのが得意とは言えず、それが著者自身の大きな悩みの一つであったように思う。本書では、試行錯誤を繰り返しながらも順調に研究能力を開発してきた様子が描かれているが、実は著者が最も苦労したのは、研究の出発点である化石発見能力の獲得であったのではなかろうか。化石発見能力というと、センス／勘／運という不確定要素と思われがちだが、実は古生物学者の命綱である。研究開始からおよそ10年をかけて、さまざまな調査を体験し、そこから科学的必然性を見出す努力を重ねることで、著者の化石発見能力は最近では評者に敗北感を与えるほどの高いレベル

に達している。

また、第1章から第5章に書かれているように、節目ごとに研究スタイルを一新し、そのつど一から研究を組み上げてきた著者の歩みには、研究能力の自己開発という著者に備わる資質が遺憾なく発揮されているように思える。個人的に本書で最も気に入っているのは、「椎野君、学問とは気合いだよ」という力学分野の専門家の励まし言葉が出てくる場面であり、著者が博士課程で流体シミュレーションに挑戦してゆく後押しとなった瞬間が活写されている（第4章，p.179）。残念ながらこのような資質を持ち合わせない評者は、未知の学問分野に挑むことに逡巡しがちである。

古生物学など自然史系分野は、何をどのように研究するのか、そして研究結果にはどんな意義があるのか？と問われ続けている。本書は「自然科学で重要なのは、いま眼にしている自然界の事象に潜む必然性をまず見出すことにあるのだ」というひとつの回答を示していると思う。著者と年齢層が近いという点でも、自然史系、特に古生物学を志す若い学生諸君には、ぜひこの本を読んでもらいたい。また、著者が今後さらなる自己能力の開発を行い、その過程や研究上の逸話を別の機会ですべて披露してくれることを大いに期待したい。

鈴木雄太郎

学会記事

日本古生物学会（2013・2014年度） 第2回定例評議員会議事要録

日時：2014年1月23日（木）13：30～18：20

場所：兵庫県立人と自然の博物館，博物館本館4F「実習室」

出席：大路会長，天野，安藤，遠藤，平山，入月，井龍，北村，北里，小林，近藤，前田，間嶋，中島，奈良，西，佐々木，佐藤，生形，矢島，原田（事務局）

欠席：加瀬（→間嶋），甲能（→平山），真鍋（→佐藤），松岡（→近藤），富田（→大路）

書記：土屋，大橋（藤原代理）

報告事項

常務委員会報告（北村）

会長（大路）

- 2014年の地球惑星科学連合大会は、横浜国際会議場で4月28日～5月2日に開催。セッション提案の受付が開始された（2013年9月2日（月）～10月24日（木）17：00）。なお、12月と5月に行う学協会会議の開催は学協会会長に任命された古生物学会会長が行う。
- 学術会議（特に地球科学委員会大学教育分科会からの参照基準）について、地球科学委員会大学教育分科会において、パブリックコメントを反映させた参照基準案（ver. 7）が完成し、「地球生命科学」の部分について大幅に追加・書き換え中である。
- 古生物のデータベース（アメリカ，オーストラリア，ドイツにサーバーを持つ）として最大の“Paleobiology Database”については、引き続き情報を収集することとした。
- 静岡県清水区「自然学習資料センター」に保管されてい

る学会図書の現状、整理状況および、学会図書が移転する旧静岡南高校（2014年度に自然史博物館施設となる予定）を現地視察し、状況を報告した。

庶務（北村）

1. 前期限りで評議員を定年になった3名（小笠原憲四郎君、棚部一成君、植村和彦君）に特別感謝状を郵送した。
2. 本学会後援の第26回国際鳥類学会会議（IOC2014）のHPを日本古生物学会のHPにリンクさせた。
3. 古生物学会メーリングリスト psj-councillors（評議員）、psj-standing（常務委員）の管理は「さくらインターネット」を利用することになった。
4. 常務委員（井龍君、中島君）と幹事（高桑君、土屋君）に委嘱状を送付した。
5. 学研メディカル秀潤社から Okamoto, T. (1989) Transactions and Proceedings of the Paleontological Society of Japan, New Series, no. 154, 117-139 の Fig. 14, 1-7, 岡本 隆 (1984) の化石, No. 36, 37-51 の図3, 岡本 隆・朝見幸司 (2002) の化石, No. 71, 1-18 の図3A, B の転載許可願い（転載先：掲載書籍：『こんどうしげるの生命科学の明日はどっちだ!?』（仮題）（2013年9月 発売予定））があり、これを許可した。
6. 日本地球惑星科学連合に会長変更を通知した。
7. 文部科学省研究振興局に会長変更を通知した。
8. 日本学術会議に会長変更を通知した。
9. 日本地球惑星科学連合から学会選出プログラム委員選出の問い合わせがあり、本山功君とロバート・ジェンキンズ君に委員をお願いすることとした。
10. Elsevier Ltd. から Kuroda & Ohkouchi (2006) Paleontological Research 10, 345-358 の Figure 1 の転載許可願い（転載先：Treatise on Geochemistry, second edition）があり、これを許可した。
11. 静岡県に寄託した学会図書の突き合わせ作業の実施状況が報告された。
12. 学会寄託図書の突き合わせ作業に際して、静岡大学の学生8名をアルバイトとして雇用し、157,250円を支払った。
13. 学術著作権協会から権利委託者現況調査の依頼があり、対応した。
14. 大学病院医療情報ネットワーク（UMIN）に会長変更を通知した。
15. 国立国会図書館から、日本古生物学会年会講演予稿集と日本古生物学会例会講演予稿集のオンライン資料収集制度（平成25年7月1日から改正国立国会図書館法に基づき、学会を始めとする私人がインターネット上で出版（公開）した電子書籍、電子雑誌等（「オンライン資料」と称する）のうち、無償かつDRM（技術的制限手段）のないものについて納入いただく、「オンライン資料収集制度」を開始）への登録の依頼があり、登録の手続きを行った。
16. 分類学会連合の担当に佐々木猛智君を選出した。
17. 幹事を次のように選出した（敬称略）。庶務幹事：藤原慎一（名古屋大学博物館）。行事幹事：樽 創（神奈川県立生命の星・地球博物館）、河潟俊吾（横浜国立大学）。企画・広報幹事：ロバート・ジェンキンズ（金沢大学）。欧文誌幹事：鈴木紀毅（東北大学）・和仁良二（横浜国立大学）・高桑祐司（群馬県立自然史博物館）。「化石」編集幹事：佐藤慎一（東北大学）。友の会幹事：大橋智之（北九州市立自然史・歴史博物館）、奥村よほ子（佐野市葛生化石館）。会員幹事：当面置かないこととした。
18. 現行の学会HPは文字が小さいこと、情報のリンクを探しにくいことなどの、デザインや階層構造、コンテンツなどの問題があるため、来年度中にリニューアルを行うことを承認した。リニューアルは外注することとし、その費用10～20万円を承認した。

19. 委嘱状の依頼があった幹事（樽 創君）に委嘱状を送付した。
20. 出版社著作権管理機構から著作権使用料として、21,000円の分配があるとの報告があった。12月中に入金予定。
21. 安藤寿男君から、地質科学国際研究計画（IGCP）608の共催の依頼があり、これを承認した。
22. 次の3校から日本古生物学会例会における高校生ポスターセッションへの派遣状の作成依頼があり、これを承認した。1) 沖縄県立真和志高等学校、2) 茗溪学園中学校・高等学校、3) 海城中学校・高等学校
23. 第163回例会（兵庫）のプログラム・予稿集印刷・発送については、予稿集印刷は杏林舎が行う。コストダウンのため、薄手の表紙を使用し、カメラレディーかつモノクロ印刷することとした。再度見積りを行い、メールで報告することとした。プログラムは1200部、予稿集は400部用意する。高校生ポスターセッション参加校へは個別にプログラムをメールで送付した。
24. 第163回例会（兵庫）の高校生ポスターセッション関係者の参加費は無料（予稿集は有償）とすることとし、参加校に連絡することとした。
25. 事務局での休日対応を避けるため、2014年年会の締切を2014年4月24日（木）に変更し、変更内容をPR Vol. 18, no. 1に掲載することとした。
26. 電子媒体のある図書については、今後紙媒体不要の通知を送付元に送ることとした。
27. 地球惑星科学連合大会ジオパークセッションから、本学会からコンビーナ候補者を出すよう要請があり、審議した結果、要請を見送ることとした。

会計（佐藤）

1. 事務局職員の雇用保険料として、11,016円をUniBioに支払った。
2. 動物命名法国際信託へ500ポンド（約8万円）の寄付を予定していたが、信託側で寄付金受入の事務的な準備ができてないのので、寄付を先送りする。

行事（佐々木）

1. 2013年熊本年会の報告：参加費内訳（参加者279名）625,000円。予稿集販売内訳（15,000円）、例会開催費補助金（354,400円）、支出合計（385,936円）、学会への返納額（604,174円）であった。
2. 今後の行事予定
第163回例会：兵庫県立人と自然の博物館（2014年1月24日（金）～26日（日））
2014年年会・総会：九州大学（2014年6月27日（金）～29日（日））。第3回常務委員会で、詳細を検討し、評議員会へ報告することとした。
第164回例会：豊橋市自然史博物館（検討中）2015年1月（第2回評議員会で開催地を決定）
3. 兵庫例会の準備状況
日程：2014年1月24日（金）シンポジウム・懇親会
2014年1月25日（土）口頭発表・ポスター発表・夜間小集会
2014年1月26日（日）口頭発表
4. 豊橋例会の準備状況：豊橋市の経費の概算要求を検討している。普及講演会を開催する場合は、行事係から科研費研究成果公開促進費を申請する予定である。
5. 第163回例会におけるシンポジウム・普及講演会に関する科研費「研究成果公开发表（B）」の申請を行った。
6. 2015年年会・総会の開催地として早稲田大学と福井県立恐竜博物館から申し込みがあった。
7. 第163回例会の準備状況：口頭54件、ポスター39件、一般講演合計93件の申込みがあった。高校生ポスター6件の申し込みがあった。

8. 第163回例会シンポジウム「古生代化石研究の最前線」の趣旨の文章を検討し、承諾した。

企画・広報（中島）

1. 第163回兵庫例会の講演要旨投稿時より運用するオンライン投稿システム（ダイナックス社）の概要について報告した。会費未納者の投稿が可能とすること、講演要旨を確認できるように、投稿システムを変更することとした。
2. 高校生ポスターセッションの募集要領に、「発表内容は、すでに発表したことがあるものと同一のものは受け付けないが、追加のデータや新しい解釈があれば、発表は可能であること。キーワードとして、古生物（現生生物も含む）の進化や生態・層序・堆積・環境・古環境等に関する内容である必要があること」を追加することとした。
3. 年会・例会のオンライン講演申込みシステム運用（ダイナックス社）を開始した。システム構築料金は230,000円（税込241,500円）。
4. プログラム予稿集作成のウェブ入力の際に以下のトラブルがあり、対応した。1) オンライン登録の入力確認画面で文字化けが生じる（元データは不具合なし）、2) 発表者名と所属機関にズレが生じる、3) 句読点の全角・半角が誤変換、4) 共著者の訂正をする場合、最初から登録をやり直す必要がある、5) 登録確認メールでの文字化け。
5. 第163回例会の高校生ポスターセッションに関西圏の高校地学研究会およびSSH高校に案内を出した。

友の会（中島）

1. 第163回例会（兵庫）にて第三回友の会イベント「ひとく恐竜ラボ」でのラボツアーを予定（14/01/26, 13:00～）。担当：奥村よほ子君・三枝春生君・池田忠広君。
2. 友の会会員数の全体的な増加を報告した（既存会員101名、入会者48名、退会者21名、計128名）。入会動機は、HP、パンフレットの順である。高齢者会員の退会や小学生会員の短期での退会が目立つことが報告された。

渉外・電子ジャーナル（真鍋）

1. UniBio加盟誌など13誌で、多様な分野のジャーナルの国際発信力強化のため、5年間の科学研究費補助金を申請した。オープンアクセスの部分的な試行等の経費が補助される予定。
2. PR電子版編集に関わる人件費は、近日UniBioより入金予定。
3. UniBioの予算からPRの論文が引用された場合、これを著者に通知するサービスが機能していることを確認した。

学会図書（遠藤）

1. 資料の送付先を自然史科学研究所から事務局へ変更したが、未だに自然史科学研究所へ資料が送付されている。誤送された段ボール2箱分の資料は事務局へ送付した。今後、送付先住所の変更がなされていない機関を個別に確認し対応する。
2. 静岡県清水区「自然学習資料センター」に保管されている学会図書の現状、整理状況および、学会図書が移転する旧静岡南高校（2014年度に自然史博物館施設となる予定）を現地視察し、状況を報告した。

事務局（原田）

1. UniBioより、2012年度年間購読料として、964,421円の振込みを確認した。
2. 常務委員の引き継ぎに係る交通費を支払った。
3. Paleontological Research Vol. 17, no. 4および、化石94号を同封して発送した。
4. Society for Integrative and Comparative Biology 年会（Austin：14/01/04～）におけるPR誌の広報活動のため、UniBioの担当者へPR17号各巻2部ずつを提供した。
5. 事務局のプリンターのメンテナンスを行うこととした。

会員の入退会報告および会費割引申請の審査報告（西）

1. 前回の評議員会（2013年6月27日）以降、入会18名（笠島宗憲君、高橋 唯君、加藤ひかる君、河村 愛君、渡邊絵美君、竹本真佑里君、石川浩平君、津田龍一君、平本 潤君、森 浩嗣君、武川 愛君、安里開士君、久保貴志君、河合巧幾君、Felix G. Marx君、中谷大輔君、渡邊嵩大君、小沼拓也君）、退会7名（橋本一雄君、佐々木政紀君、高橋麻衣君、中村勇洋君、吉岡由紀君、鈴木 茂君、渡邊其久男君）、逝去2名（的場保望君、湯浅誠二君）があった。2014年1月23日現在の会員数は1,053名（前回評議員会比+18名）である。
2. 前回の評議員会（2013年6月27日）以降9名の会員（波田重熙君、加藤ひかる君、河村 愛君、竹本真佑里君、渡邊絵美君、石川浩平君、平本 潤君、安里開士君、渡邊嵩大君）の資格変更が完了した。
3. 学会費の滞納者のリストを報告し、注意を喚起するよう依頼した。

編集状況報告

欧文誌（井龍・生形）

1. 8月4日に東北大学で引き継ぎを行った。
2. 鈴木紀毅君（東北大）、和仁良二君（横浜国大）、高桑祐司君（群馬県博）を幹事に選んだ。
3. 出版・編集状況
 - ・Vol. 17, no. 3, Vol. 17, no. 4, Vol. 18, no. 1を発刊した。
 - ・1月23日現在のPR編集状況は、受理9編、決済待1件、修正中13件、査読中5件、受付2件。2013年の総投稿数は42件。Vol. 18, no. 2の原稿まで確保されている。
4. 高解像度の画像の送り先を変更した（「A Guide for Preparing Manuscript」のReferencesの追加で対応）。
5. International Chronostratigraphic Guideの遵守について、2012年版に準拠し、例を明示することとした。
6. Vol. 18, no. 1から、doi番号を「古生物学会固有番号（10.2517）/「出版年4桁+PR+原稿番号3桁」」に変更した（例：10.2517/2014PR001）。
7. 投稿論文の編集過程に関して著者より照会・抗議を受けたため、これに対応した。
8. “A GUIDE FOR PREPARING MANUSCRIPTS” に以下の改訂を加えた。
 - 1) 改訂の日付（December 10, 2013）、2) 編集長交代に伴うCD送付先変更、3) カラーチャージの明記、4) 引用文献リストの追加・変更（特殊な人名、DSDP関係出版物の書き方）、5) 国内の地名の英語表記法（原則としてダイアクリティカルマーク（長音記号等）を使用しない。次の一文を追加した：“Diacritical marks should be used for Japanese geographic names unless the editors find them necessary to avoid confusion.”）、6) 編者不在かつ複数著者のChapter in a bookの引用例（Akiba, 1986）を追加。Akiba, F., 1986: Middle Miocene to Quaternary diatom biostratigraphy in the Nankai Trough and Japan Trench, and modified lower Miocene through Quaternary diatom zones for middle-to-high latitudes of the North Pacific. *In*, Kagami, H., Karig, D. E., Coulbourn, W. T. *et al.*, *Initial Reports of the Deep Sea Drilling Project*, vol. 87, p. 393–481. U. S. Government Printing Office, Washington, DC.
9. 投稿数・論文の質・インパクトファクターを伸ばすための一環として、PRの宣伝チラシを兵庫例会会場で配布する。

化石（前田）

1. 8月19日に静岡大学で引き継ぎを行った。
2. 編集委員を佐藤慎一君、上松佐知子君、川辺文久君、佐

藤たまき君, 須藤 斎君, 辻野 匠君, 生形貴男君, 矢島道子君とした。

- 94号は, 口絵1編, 論説2編, 解説1編, 追悼文3件で出版した。
- 95号を3月末日に出版予定である。口絵(依頼済み), 論説2編, 書評1編(受理), 追悼文1件, 友の会1編(依頼済み)を収録。
- 95号収録分よりも後の投稿状況は, 総説1編, 解説1編, 論説1編が査読中。

特別号(井龍)

- PR Supplementへの投稿があり, 編集を開始した。出版は来年度の予定である。

連合・学術会議報告

地球惑星科学連合(大路)

- 日本地球惑星科学連合第9回学協会長会議が2013年10月18日に開催され, 出席した。
- JpGU25周年記念フェロー制度が創設される。
- 25周年記念事業の実施計画として, 2014年連合大会で記念式典, 2015年連合大会で国際式典および国際シンポジウムが開催される予定。
- 日本地質学会が中心となり, 2015年連合大会でGeological Society of AmericaとのJoint Meetingの開催が計画されている。
- JpGUのオープンアクセスのジャーナルが発刊される。
- 地球惑星科学連合大会は2014年4月28日～5月2日にパシフィコ横浜で開催される。
- 12月と5月に行う学協会会議の開催は学協会会長に任命された古生物学会会長が行う。

学術会議(北里)

- 第22期日本学術会議では, 北里 洋君が会員, 大路樹生君, 西田治文君, 真鍋 真君, 平 朝彦君, 西 弘嗣君が連携会員となっている。北里 洋君, 大路樹生君, 西田治文君, 真鍋 真君は2014年9月までの22期の任期である。
- 大型計画マスタープランの改訂が進んでおり, 古生物学会が関わるものが次の3件である。1) 自然史科学のイノベーションを目指す国立自然史博物館の設立(統合生物学委員会), 2) フルデプス有人潜水調査船開発と超深海海溝生命圏探査計画(統合工学委員会), 3) 掘削科学を用いた全地球システムの解明(地球惑星科学委員会)。
- 学協会との連携に関連して次の3件を進めている。1) 夢ロードマップのバージョンアップ, 2) 国際的な学術成果発信のプラットフォームの強化としてオープンアクセスジャーナルの支援, 3) 大学教育の分野別質保証としての参照基準策定。
- 学術会議の機能強化として, 会員・連携会員の推薦が重要となる。
- 古生物学関係の分科会・小委員会として, 1) 自然史・古生物分科会, 2) 自然史標本の文化財化分科会, 3) IPA小委員会, 4) ICS小委員会が活動している。
- 学術会議(特に地球科学委員会大学教育分科会からの参照基準)について, 地球科学委員会大学教育分科会において, パブリックコメントを反映させた参照基準案(ver. 7)が完成し, 「地球生命科学」の部分について大幅に追加・書き換え中である。

自然史学会連合(佐々木)

- 2013年度自然史科学連合講演会「みる! きく! さわる! 博物館～五感で感じる生物多様性～」が7月28日に沖縄県立博物館・美術館で開催された。
- 2013年度自然史科学連合総会が2013年12月14日に東京大学で開催された。

- 2014年公開講演会は11月23日に茨城県自然博物館で開催される。

- 自然史学会連合が発行を計画している図書は誠文堂出新光社から発刊され, 古生物学会からは伊左治鎮司君が担当する。

分類学会連合(佐々木)

- 第13回日本分類学連合総会およびシンポジウム「生物多様性条約と名古屋議定書が分類学研究分野へ与えるインパクト～とくに国内措置について～」が2014年1月11日に国立科学博物館上野本館で開催された。
- 来年のシンポジウムは2015年1月10日に開催予定である。

各種委員会報告

将来計画委員会(大路)

- 将来計画委員会のメンバーを次の10名に決定した。中島礼委員長, 藤原慎一君, ロバート・ジェンキンズ君, 川辺文久君, 小林快次君, 野牧秀隆君, 大橋智之君, 奥村よほ子君, 佐藤たまき君, 高栗祐司君。
- 2014年1月24日に第一回将来計画委員会を開催する。

被災博物館レスキュー委員会(真鍋)

- 永広昌之君が8月下旬に陸前高田市立博物館で古生代軟体動物化石の同定・リストの修正などの作業を行った。これまでに古生代軟体動物化石は363点がレスキューされ, うち92点については, 分類などのデータをエクセルファイル上で加筆修正を行った。また, 今回新たに1点の標本が追加された。364点のうち震災前の標本番号が復元できたものは, 54点である。

その他

- 安藤寿男君から第1回国際研究集会の開催報告(2013年12月20-27日 インド, ラクナウ)と第2回国際研究集会の開催案内(2013年9月 早稲田大学)があった。
- 学会図書の有り様について
電子媒体のある図書については, 今後紙媒体不要の通知を送付元に送る。今後, 廃校となった静岡県立静岡南高校の旧校舎が改修され, ふじのくに地球環境史ミュージアム(仮称)が同地に開設される予定に合わせて, 学会図書をアルファベット順に梱包し, ミュージアムに開架する予定である。梱包・開架の作業を北村晃寿君を中心に行う。また, 貸し出しや図書(重複図書を含む)の廃棄等を含めて常務委員会で検討する。

審議事項

学術賞, 論文賞, 貢献賞の決定

学術賞, 論文賞, 貢献賞を以下のように決定した。

学術賞: 佐々木猛智君「軟体動物の進化古生物学的研究」

論文賞:

Sato, K., Nakashima, R., Majima, R., Watanabe, H., and Sasaki, T. 2013. Shell microstructures of five recent solemyids from Japan (Mollusca: Bivalvia). *Paleontological Research* 17 (1): 69–90.

Kawabe, S., Shimokawa, T., Miki, H., Okamoto, T., Matsuda, S., Itou, T., Koie, H., Kitagawa, M., Sakai, T., Hosojima, M., and Endo, H. 2013. Relationship between brain volume and brain width in mammals and birds. *Paleontological Research* 17 (3): 282–293.

Iwatani, H., Irizuki, T., and Goto, T. 2011. Temporal changes of Plio-Pleistocene ostracoda from the Takanabe Formation, Miyazaki Group, southwest Japan. *Paleontological Research* 15 (4): 269–289.

貢献賞：林原自然科学博物館「古脊椎動物学の振興と普及への貢献」

学会推薦の賞について

2014年度猿橋賞受賞候補者として、佐藤たまき君を推薦することとした。

2014年年会・総会シンポジウム案について

2014年年会シンポジウム案「フィールド古生物学」(世話人：前田晴良君，大路樹生君，御前明洋君)を承認した。

2014年年会・総会への開催資金援助申請について

九州大学年会・総会の開催経費について、開催実行委員会からの資金援助金の申請(436,200円：内訳は、学生アルバイト雇用費：299,200円，パソコン・レンタル費：107,000円，消耗品費：30,000円)について審議し、承認した。

第164回例会の開催地について

第164回例会を豊橋市自然史博物館において、平成27年1月30日(金)～2月1日(日)に開催することとした。シンポジウム案を第4回常務委員会で検討し、第3回定例評議員会で決定する。

第164回例会

開催地：豊橋市自然史博物館

開催日時：平成27年1月30日(金)～2月1日(日)

1月30日(金)午後：シンポジウム，夕方：懇親会

2月1日(土)終日：口頭発表・ポスター発表

2月2日(日)午前：口頭発表，午後：普及講演会 渡辺政隆氏(筑波大学教授)

担当者：豊橋市自然史博物館 安井謙介氏

2015年年会・総会の開催地について

2015年年会・総会を2015年6月に開催する方向で検討しており、早稲田大学・福井県立恐竜博物館から立候補があった。第3回定例評議員会にて開催地を決定する。

予稿集の印刷代について

投稿システムの変更に伴い、講演予稿集の印刷を杏林舎とし、印刷費327,432円を杏林舎に支払うことを承認した。この変更に伴い、印刷費用は減少する見込み。本予稿集の印刷は、表紙をカラーとしたが、次回以降はグレースケール印刷とする。

出版・編集規定の部分改訂について

日本古生物学会出版・編集規定第一条の1)を以下のように改訂することを承認した。

現行：1) Paleontological Researchは、年4回定期的に刊行する欧文誌で、会員より投稿の古生物学に関する英文による原著論文、総説、短報、ならびに本会記事を掲載する。なお、年1回以内Supplementを出版することができる。

改訂案：1) Paleontological Researchは、年4回定期的に刊行する欧文誌で、古生物学に関する英文による原著論文、総説、ならびに短報を掲載する。なお、年1回以内Supplementを出版することができる。

PR投稿規定の部分改訂について

1. 「A. 投稿規定1. 原稿の種類」を以下のように改訂することを承認した。

現行：論文原稿は図・表等を含めて5印刷ページ以上の原著論文(Articles)および総説(Review)と、4印刷ページ以内の短報(Short notes)とする。

改訂案：論文原稿は図・表等を含めて3印刷ページ以上の原著論文(Articles)および総説(Review)と、2印刷ページ以内の短報(Short notes)とする。

2. 「B. 著者への指針」の前文を以下のように改訂することを承認した。

現行：次に掲げる「著者への指針」は、より充実した質の高い論文をPaleontological Researchになるべく数多く速やかに掲載し、かつ編集・出版業務を円滑に進めるための投

稿著者に対する案内あるいは勧告である。従って、著者の論文作成を強く拘束する性質のものではないが、その趣旨を十分に尊重して遵守され、原稿を作成するよう希望する。改訂案：「A Guide for Preparing Manuscripts」及び次に掲げる「著者への指針」は、より充実した質の高い論文をPaleontological Researchになるべく数多く速やかに掲載し、かつ編集・出版業務を円滑に進めるためのものである。従って、その趣旨を十分に尊重し、両指針を遵守した上で、原稿を作成すること。

理由：現行の前文では、「著者への指針」の遵守が任意であることが殊更に明記されており、これに投稿規定の機能を負わせて運用している現状にそぐわない。国際誌に相応しい体裁を維持するためには、これを単なる指針ではなく規定として位置づけるのが望ましい。また、現行では英文の「A Guide for Preparing Manuscripts」が規定によって位置づけられていないので、これに明確な地位を与える必要がある。

PR受理原稿の早期公開について

PR掲載論文の被引用機会を増やすために、受理された未出版論文にDOIを付けた上で組版する前の原稿を学会HP上で公開することを承認した。ただし、学名の命名上の問題を避けるために、新分類群の原記載を含む論文は対象外とする。また、公開は、著者の希望の有無を問いあわせた上で判断することとした。なお、BioOneとの関係上で問題が生じないことは確認済みである。受理原稿は、完全にオープンアクセスとするが、出版されたものについては、受理原稿を削除する。PR18-3から実施する予定。

PR掲載論文日本語要旨のHPでの公開について

PR掲載論文の内容を国内に宣伝するため、PR18-1から各論文の日本語要旨を掲載することを承認した。日本人著者が含まれている論文はその著者に、それ以外の場合は、著者の承諾を取り、副編集長に邦訳を依頼する。「化石」の友の会コーナーに掲載している解説記事との棲み分けについて配慮する必要がある。

「化石」投稿規定部分改訂案

「化石」編集長の変更に伴って、原稿の送付先についての「化石」投稿規定の部分改訂を行うことを承認した。送付先は、以下の通り。

〒812-8581

福岡市東区箱崎6-10-1

九州大学総合研究博物館内

日本古生物学会「化石」編集長 前田晴良

会費支払方法の変更

会費回収率の向上および入金済みデータの確認、入金口座の一元化を図るため、ゆうちょ払込票による支払を代金回収システム「コンビニネット」(コンビニ支払のみ有効、支払い有効期限あり)に切り替えることについて、初期費用および使用料金とともに、承認した。本振り込み方法の変更は、2014年4月から開始することとする。なお、郵便局の口座は継続するため、ゆうちょ利用者のために、振込先情報を周知することとした。

初期費用：40,000円(会員バーコードを印刷+入金管理のための専用ソフトの導入)

使用料金：年額約43,000円(内訳：月額使用料 16,500円(支払い有効期限を2か月間としての利用を想定した場合)×2=33,000円，専用請求用紙代 年額10,000円(利用会員数を年間1,000名以内として想定)。なお、一人あたりの収納手数料120円は会員が負担する。

学会基金の使途計画について

不定期出版物刊行基金等の学会基金の使途計画について、学会基金の具体的な使途計画の提案が次の通りあり、これを

承認した。不定期出版物刊行基金（1,600,000円）・研究委員会等助成基金（600,000円）・周年事業基金（8,003,520円）・国際会議開催等助成基金（10,000,000円）。

不定期出版物刊行基金は、本年初旬に解約し、出版予定のPR supplementに充当し、残金は、一般会計に組み込むこととした。また、研究委員会等助成基金の解約を承認するとともに、一般会計に組み込む不定期出版物刊行基金の残金とを合わせて国際古生物学会議メンドーサ大会（IPC4）への若手研究者支援の支出とすることを承認した。また、2035年開催予定の学会100周年記念事業で使用予定の周年事業基金（施設・備品使用料など：2,000,000円、記念グッズ作成費：1,000,000円、招聘者旅費：2,000,000円、若手会員等への支援：2,000,000、その他（編集費等）：1,000,000円）および、国際会議開催等助成基金（現在招致活動中の国際古生物学会議（IPC5、2018年9月開催予定）に関連して使用する予定）については、使途計画通りに運用することを確認した。

IPC5招致

Executive committeeは、本招致委員会委員（遠藤一佳君、佐藤たまき君、大路樹生君、西弘嗣君、生形貴男君、中島礼君、對比地孝亘君、松岡篤君、西田治文君、真鍋真君）および東京大学の磯崎行雄君とすることを承認した。

IPC5の開催候補地を「パシフィコ横浜」とし、2018年9月16日～9月21日の日程で招致活動を行うことを承認した。

IPC4での若手支援の募集人員

募集人員を5名とし、最大150万円の補助を行うこととした。

第163回例会におけるポスター賞選考委員の選出

小林君（委員長）、天野君、大路君、中島君、佐藤君の5名を選出した。

次回定例評議員会の日程について

2013・2014年度第3回定例評議員会を、2014年6月26日（木）午後13：30から九州大学において開催することとした。その他

オンラインの投稿システムについて、文字コードの問題などから、系の業務負担の軽減とはならなかったが、九州大学開催時も本投稿システムを使用することとした。なお、本システムの問題点等を常務委員会で議論していく。

年会・例会時の写真撮影については、許可があれば撮影可としていたが、企画広報の仕事としての必要性から、企画広報担当者の撮影を承認した。本学会の企画広報業務として行っていることを示す腕章等を掲示し、撮影を行うこととした。

本年中に出版予定のPR supplementの配布は無料とするが、通常号と同封するなど、経費の軽減を行う。

受賞ポスター

日本古生物学会163回例会 (1月 兵庫県立人と自然の博物館) 優秀ポスター賞（順不同）

●竹田裕介・棚部一成・Landman, Neil・佐々木猛智君
白亜紀後期北米内陸海におけるスカフィテス科アンモノイド類の殻にみられる被食痕の解析

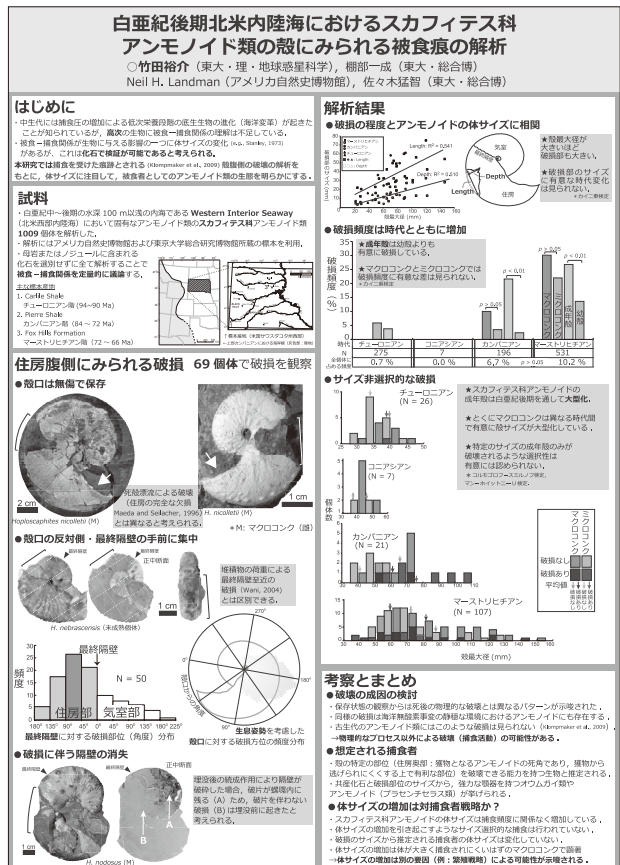
●平田泰之・南翔平・足立奈津子・江崎洋一君
和歌山県由良町地域に認められる厚歯二枚貝を産する特殊な礁の特徴と形成様式

●岡西政典・千徳明日香・藤田敏彦君
ツルクモヒトデ目（棘皮動物門、クモヒトデ綱）の分子系統解析と骨片の形態に基づく新分類体系



優秀ポスター賞受賞者

左から千徳明日香君、岡西政典君、平田泰之君、大路樹生会長、竹田裕介君、佐々木猛智君



竹田裕介君ほかポスター

- 山元拓実・上田賢輔・河村祐樹・西川 直・福坂智也君（兵庫県立尼崎小田高等学校）
岡山県黒島海岸調査および海藻とワレカラの関係



兵庫県立尼崎小田高等学校・ワレカラ研究班の表彰.

- 島袋健太・新垣孝之・仲嶺昂賢・末吉顕己・渡慶次康仁・吉田柊太・知念幸子君（沖縄県立真和志高等学校）
ネズミ化石の研究～トクノシマトゲネズミと沖縄トゲネズミの骨格を比較して～



沖縄県立真和志高等学校の皆さん、

- 中村亮祐・林 真大・中奥祐樹君（兵庫県立尼崎小田高等学校）
形態およびミトコンドリアDNAによるカメノテの系統地理

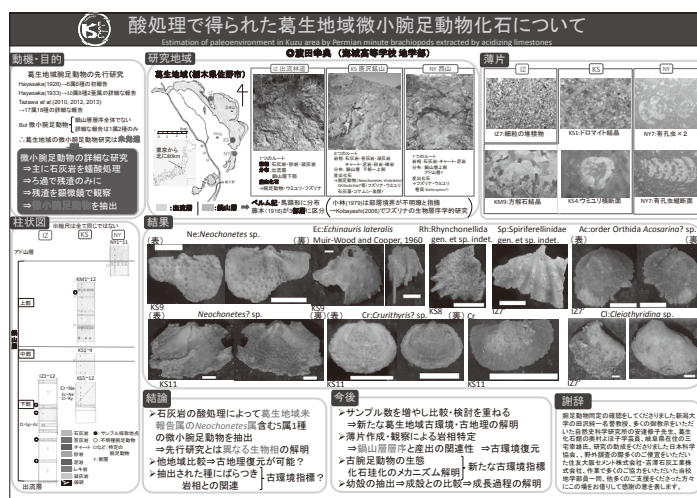


兵庫県立尼崎小田高等学校・カメノテ研究班の皆さん。

- 林 真大・小田翔平・中奥祐樹・中村亮祐君（兵庫県立尼崎小田高等学校）
雑種として扱われてきたタンポポの葉緑体 DNA 解析



兵庫県立尼崎小田高等学校・タンポポ研究班の皆さん。



高校生ポスター優秀賞受賞ポスター（海城高等学校，濱田幸典君）。

編集委員会より

昨年秋に生形貴男・前編集長より重責を引き継ぎました。今回が初仕事です。不慣れなため至らない点も多いかと存じますが、会員の皆さまのご意見・ご要望をできるだけ多く取り入れながら和文誌「化石」の拡充に力を注ぐ所存です。

諸先輩および関係者のこれまでのご努力により、和文誌「化石」は非常に活性化してきました。今回も編集委員に非常に強力なスタッフが揃っています。和文誌「化石」の出版は従来どおり年2回ですが、強力な編集体制を活かして、完成度の高い原稿は速やかに受理し、なるべく早期に掲載できるよう努力して参ります。会員の皆さまのご投稿を心よりお待ちしております。

(前田晴良)

私は古生物学に親しみと尊敬をもっている者ですが、現在は陸域・海域の層序学という若干分野が違う研究活動をしています。‘プロパー’でないちょっと外からの視点を生かして、「化石」が益々発展するように尽力いたします。

(辻野 匠)

「化石」は邦文誌として研究者だけでなく一般の方にまで広く親しまれている雑誌です。また「化石」から論文デビューを果たす学生さんも少なくないと思います。歴史ある学術誌だということを念頭に置き、より良い出版物になるよう微力ながらお手伝いできればと思います。

(上松佐知子)

「化石」編集部からのお知らせ

電子ジャーナル配信中

「化石」創刊号以降のコンテンツ（PDFは78号以降）を電子ジャーナルとして配信中です。電子ジャーナルのホームページは以下の通りです。

<http://www.soc.nii.ac.jp/psj5/fossils/Fossils.htm>

学会ウェブページの「化石」のページからもリンクが貼られています。出版後1年以内のコンテンツは会員限定で、パスワードがかけられています。各論文へのリンクをクリックするとパスワード入力用のダイアログボックスが現れますので、Paleontological Researchの電子ジャーナルのUser ID（パスワードの方ではないので注意）と同じ文字列を入力することでダウンロードできます。是非ご活用ください。

電子投稿受け付け中

現在、「化石」では、電子メールの添付書類での投稿を受け付けておりますので、積極的にご利用ください。詳しくは、「化石」投稿規定第2条b項をご覧ください。

会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

「化石」編集長 前田晴良

